

(4) カリキュラムアドバイザーからの報告

カリキュラムアドバイザー 祐岡 武志
(阪南大学 経済学部 教授)

はじめに

祐岡武志（以下、報告者）は、奈良県教育委員会より令和3年度 WWL コンソーシアム構築支援事業における、カリキュラムアドバイザーの委嘱を受け、拠点校である奈良県立国際高等学校に週2日程度の勤務をした。拠点校は本事業指定1年目にあたるため、カリキュラムアドバイザーの主たる目的は、事業に係るカリキュラム研究開発計画に関する指導、及び事業連携校との探究プラットフォーム策定の指導及び助言となる。以下に、委嘱期間中（令和3年5月11日から令和4年3月31日）におけるカリキュラムアドバイザーとしての活動を、拠点校における活動とコンソーシアム構築の2点から記す。

拠点校における活動について

拠点校である奈良県立国際高等学校は、開校2年目を迎える新設校のため、1・2年生の2学年が在籍している。報告者は、拠点校における活動として、主にカリキュラム研究開発計画の策定と実施に関する助言と指導を行った。具体的には、学校全体のカリキュラム編成と、学校設定科目「グローバル探究」の教育内容と教育方法の開発・実践を支援した。

教員研修としては、5月19日に「カリキュラム・マップのPDCA」と題し、拠点校の6つの「身につけたい力」とESD（持続可能な開発のための教育）の関係を解説し、探究プロセスに基づくPDCAサイクルを示した上で、令和3年度のカリキュラム・マップを教員と作成するワークショップを行った。8月2日には、「グローバル探究における探究的な学びについて」と題し、探究的な学びについて、目的・内容・方法・評価の4観点から講演し、2年生のグローバル探究Ⅱの6つのゼミ「みんなでつくる笑顔のコミュニティ」「いのちの輝きを未来に伝える」「蒼い地球を未来につなぐ」「みんなちがうから、みんなで支え合う」「グローバルが生み出す力」「先人の知恵を未来へ届ける」それぞれの担当教員から1学期の実践を報告いただき、ゼミ相互や1学年の教員間で情報共有を図るワークショップと今後のスケジュール共有を行った。これにより、グローバル探究Ⅱを担当する教員とそうでない教員の認識の差を少しでも埋め、学校全体の取り組みとすることを目指した。

日々の指導・助言としては、1・2年生のグローバル探究の授業を参観し、その学習活動を記録するとともに、活動の状況に則して個々の教員や生徒に声掛けをして、学習内容や方法を助言した。グローバル探究の授業は、1年生は月曜7限と木曜6・7限、2年生は火曜7限と金曜6・7限の各学年3単位で実施されている。1年次の前半（9月頃まで）はクラス別でボルネオを題材とした共通の学習を実施し、1年次の後半（9月以降）からは、上記の6つのゼミに分かれる。6つのゼミでは、持続可能な社会の実現を目指すことが共通の目標となっており、その理念はESDに基づく。拠点校は1学年5クラスであるので、学年全員がいずれかのゼミに分かれて所属することとなる。また、授業を担当する教員は1ゼミ2名、計12名が担当し、その手厚さが生徒の探究を支える。2年次もこの6つのゼミに分かれ、生徒は基本的には個人で探究テーマを設定して、探究活動を深めることとなる。

報告者の勤務形態では、グローバル探究の全ての授業を参観できるわけではないが、基本

的に、大学の職務に影響が少ない月曜日と金曜日を中心に勤務することで、1・2年生の授業の概要を記録にとどめた。

報告者が直接授業に関わる活動としては、10月18日に1年生のグローバル探究Ⅰにおいて、1年生全員に「メモの取り方」の授業を行い、グループワークを指導した。これは、今後のゼミ活動における探究学習の方法として、生徒の意識と能力を高めることを目的としている。また、12月3日には、2年生のグローバル探究Ⅱの学年全体発表会が体育館で実施され、6つのゼミ代表とWWL報告会参加者の計7つの発表があり、報告者はその講評を行った。7つの発表それぞれの長所や美点をあげたうえで、よりよい探究につながるよう、改善点を含めた指摘を行った。なぜなら、2年生の探究活動はこの発表で終わりではなく、3年次のグローバル探究Ⅲに継続され、夏の高校生国際会議を経て、最終的には英語での論文としてまとめる予定であるからである。

コンソーシアム構築について

本事業は、拠点校を中心として、国内外の事業連携校や事業協働機関との間で、コンソーシアムを構築することが目指されている。よって、報告者はカリキュラムアドバイザーとして事業連携校にも指導・助言の機会を模索した。具体的には、ALネットワーク会議において、各事業連携校の校長に研修や講演の依頼を受けることを申し出た。これに対して、事業連携校の1つである奈良県立高取国際高等学校から教員研修の依頼があり、8月6日に「総合的な探究の時間」における探究的な学びについて」を主題とし、探究的な学びに関する報告者の講演の後、拠点校におけるグローバル探究の取り組みを担当の松本真紀教諭から紹介いただく形で進め、並行して先生方には探究的な学習方法の一例として、「メモの取り方」を体験していただいた。「総合的な探究の時間」の実施に向け、高取国際高等学校の先生方には新たな示唆をもたらしたことが、事後のアンケートから読み取れた。

また、コンソーシアム構築においては、次年度の高校生国際会議の実施を見据え、会議の運営に関わる教員と生徒によるネットワークを構築することに助言を行った。

おわりに（成果と課題）

報告者がカリキュラムアドバイザーとして本事業に関わった期間は1年に満たないが、その頻度は55日程度となり、相当な時間を拠点校で過ごした。拠点校のグローバル探究に関する活動が報告の中心となったことが、その証左であり成果となる。しかし、拠点校は2学年分の教員しか配置されておらず、グローバル探究を企画・運営する組織の未整備が課題である。その点は校長も認識しておられるので、次年度の体制整備が期待できる。

事業連携校とのコンソーシアム構築については、カリキュラムアドバイザーとしての活動が限られたことが課題となろう。実際、教員研修の要請のあった学校を除いて、報告者を活用する依頼はなかった。また、ALネットワーク会議でも、事業連携校によって参加の姿勢に温度差が感じられた。具体的には、すでに他の事業の指定校となっている場合、その取り組みが優先され、WWL関連事業は付加的な位置づけにとどめているように見受けられた。多忙を極める学校現場の実態があるとはいえ、一部では他事業を抱えながらも拠点校との協働を模索する事業連携校が見られたことや、まだ1年目を終える段階でもあることから、今後の充実したコンソーシアム構築を期待したい。

令和2年度入学生 教育課程

奈良県立国際高等学校 全日制課程 国際科

教科	学 年		1	2	3	備 考
	科 目 / 標準単位数	学 級 数				
国語	国語総合	4	4			★第2・3学年では(ア)(イ)(ウ)の選択に従い、継続履修する。
	現代文B	4		3(ア)	3(ア)	
	古典A	2			2(ウ)	
	古典B	4		2(ア)	2(ア)	
	国語探究Ⅰ	3		3(ウ)		
	国語探究Ⅱ	3			3(ウ)	
	古典探究	2		2(ア)		
地理歴史	世界史A	2		2(ウ)		
	日本史A	2				
	世界史B	4		3(ア)	2(ア)	
	日本史B	4				
	地理A	2		2(ア)		
	地理B	4		2(ウ)	2(ウ)	
公民	現代社会	2	2			
	政治・経済	2			2(ア)※c	※cより1科目選択
	倫理	2			2(ア)※d	※dより1科目選択
数学	数学Ⅰ	3	3			
	数学Ⅱα	4		4(ウ)		
	数学Ⅱβ	4		4(ア)	3(ア)	
	数学Ⅱγ	4		4(イ)		
	数学Ⅲ	5		1(ウ)	5(ウ)	
	数学A	2	2			
	数学B	2		2		
理科	物理基礎	2	2			
	化学基礎	2		2		
	生物基礎	2	2			
	物理	4		2(ウ)※b	3(ウ)※e	※bより1科目選択
	化学	4		2	3	※eより1科目選択(但し、第2学年で履修した科目を継続履修)
	生物	4		2(ウ)※b	3(ウ)※e	
保健体育	体育	7~8	2	2	3	
	保健	2	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	2※a			※aより1科目選択
	書道Ⅰ	2	2※a			
家庭	家庭基礎	2	2			
情報	社会と情報	2				グローバル探究Ⅰ(2単位)で代替
英語	総合英語	8~14	6	3	3	
	異文化理解	2				グローバル探究Ⅱ(2単位)で代替
	ディベート・ディスカッションⅠ	2		2		
	ディベート・ディスカッションⅡ	2			2	
	エッセイライティング	2			2	
	EAPⅠ(English for Academic Purposes)	2		2(イ)		
	EAPⅡ(English for Academic Purposes)	4			4(イ)	
(学)国際教養	世界の言語Ⅰ	2	2			
	世界の言語Ⅱ(中韓西仏独より1)	2		2		
	世界の言語Ⅲ(中韓西仏独より1)	2			2(ア)※c	
	グローバル探究Ⅰ	3	3			
	グローバル探究Ⅱ	3		3		
	グローバル探究Ⅲ	3			3	
	ワールドヒストリー探究	2			2(ア)※d	
	サイエンス探究	4			4(ア)	
	イマージョン理数	3			3	
総合的な学習の時間		3~6				グローバル探究Ⅰ(1単位) グローバル探究Ⅱ(1単位) グローバル探究Ⅲ(1単位)で代替
ホームルーム			1	1	1	

34

34

34